新年のごあいさつ――明けましておめでとうございます

●若者の右傾化が進んでいるようだ。7割が憲法改正や核武装を支持しているという調査もある。ＳＮＳで世論が大きく変わる時代だ。普段の生活でＡＩが当たり前のように使われる社会では，一人ひとりが多様な考え方を知り考える力を身に付けないと，簡単にＳＮＳやＡＩに流されてしまう。生協役職員のみなさんに物事を深く考える機会を総研から提供することも大切な役割になってきた。（和田　寿昭）

●「ウェルビーイング」という言葉を最近聞く機会が多くなっています。WHOが最初に提起したことから，健康関連で言及されることが多かったですが，このところ様々な事柄に，この言葉が用いられるようになっています。一方，近いような概念に「ブエン・ビビール」という言葉があります。この両者の言葉について考えていきたいと思います。（茂垣　達也）

●菊勇（酒田），香の泉（湖南），国香（袋井），喜久水（能代），花の露（久留米），菊駒（五戸），関山（一ノ関）とは？　そう，日本酒の銘柄だ。実は，佳酒を醸すのにここ１～２年で廃業した蔵だ。ただ国内消費が落ち続ける一方，輸出が伸び基調なのは救い，いまや総生産量の約８％となっている。フランスのスーパーでも，寿司の傍らに埼玉県産の小瓶が並んでいた。（鈴木　岳）

●2025年はいくつかの業務を通じて，各地で生協組織の枠を超えた地域での活動についてお話をうかがう機会があった。実際に活動に取り組んでいる方々にうかがう話は，紙媒体やネット検索で得られるよりはるかに情報が豊かであり，「聞くこと」の大切さを改めて感じた年だった。2026年も引き続き色々な話を聞かせて頂きたいと思う。（山崎　由希子）

●若年層をテーマとした調査や研究を企画することが過去多くあったのですが，今年で私も完全に若年層の定義から外れることになりました。自分と同じ世代を主対象とした方が解像度が高い分析ができるかなと思うところもあるので，今後は中年層をテーマとした調査を企画してみたいと思います。（宮﨑　達郎）

●昨年から，厚生労働省社会福祉推進事業の採択を受け「地域共生社会の実現を目指した単身世帯等を対象とした生協の関わり方についての調査研究事業」を進めています。本事業は，未婚化や単身世帯の増加など，家族や地域のつながりが変容していることを受けて，地域共生社会の実現に向けた生協の役割を検討することを目的としています。本年はこの事業の成果を広く皆様に発信できるよう努めたいと思います。（中村　由香）

●ここ数年，田舎の猟師さんからジビエ肉を購入している。イノシシ肉が中心だが，クマ肉をいただいたこともある。先日，その地域の猟師がクマに襲われけがをしたというニュースを見て連絡をしてみたら「1人仲間がやられちゃいました」とお返事が…。自然のものを「いただく」という気持ちは忘れずに「共生」という言葉の意味を考えたい。（三浦　一浩）

●2025年には全国研究集会「超高齢社会において生協の果たすべき役割を考える」，『生活協同組合研究』5月号「“超々高齢社会”における生協の可能性」，10月号「超高齢社会における介護の行方」を企画させていただいた。2026年は5月号で引き続き「生協の介護事業の現在地」を特集予定。これからも生協と地域社会，日本社会の未来のために役立つ仕事ができたら…と思う。（西尾　由）

●昨年は本誌4月号で「学費・奨学金問題」，12月号で「消費者教育」を企画，私が学生時代から約40年間温めてきたテーマを形にでき，感慨深いです。箱根駅伝の沿道応援は50年以上になりますが，11月から応援だけでなくランニングも始めました。30年以上応援している横浜Ｆ・マリノスもＪ１残留を確定。今年も「継続」と「縁」を大事にしたいです。（柳下　剛）

●昨年の全国研究集会には500名近いお申込みをいただきました。コロナ禍によって中止を余儀なくされたこともありましたが，新たな形で多くのご参加をいただくことができ大変嬉しく思います。様々な出来事を経ながら生協総研は進化しています。それを一人でも多くの方にお伝え出来るよう，今年もエッホエッホと情報を発信していきたいと思います。（石川　弥生）

●あらゆる人の旅行記がネット上に溢れる昨今，想像力逞しく世界中を旅した気でいる。よく目にするのが，迷える旅人に声掛けする各国人の描写。日本人は街ですれ違う他者を“いないもの”としがちだと言われるが，個人的には他者の存在を認識する社会にたくさん救われている。心してお節介でいくべき時代なのかもと，新年の抱負に代えて。（茂木　夏子）

●2025年は一人暮らしをしている母の入院，手術，再入院と慌ただしい一年でした。今まで一人は気楽だと言っていましたが，入院したことで，一挙に体力とともに足腰も弱くなり，気持ちも落ち込んでしまいました。今年は母にとってまた家族にとってもよりよい生活，介護を模索する一年になりそうです。（鷲見　佐和子）

●昨年８月より生協総研で勤務を始めました。年配者にも優しい居心地の良い職場でホッとしています。主な業務として「アジア生協協力基金」を担当しており，アジア諸国の人々を支援するNPO団体の活動に触れることで，新たな出会いや経験を新鮮な気持ちで楽しんでいます。今年は時間的に余裕ができたことから，新たなことにも挑戦したいと思っています。（大本　隆史）